

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 37 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2018 年 8 月 24 日（金） 13 時 30 分～16 時 00 分
2. 場所： 原子力安全推進協会 D 会議室
3. 出席者（順不同，敬称略） 開始時
（出席委員） 川上（主査），北島（幹事），吉岡，泉田，尾崎，松居，田中（雄），亀尾，
佐々木，見上，伴場，池戸（12 名）
（委員候補） 相澤，根本，中瀬（3 名）
（欠席委員） 高橋，田辺，三宅（3 名）
（常時参加者） 林（隆），漆戸，乾，宮田，林（宏），本山（6 名）
（常時参加者候補） 古田，脇（2 名）
（欠席常時参加者） 石屋，梅原，柏木，中野（4 名）
（オブザーバー） 齋川（1 名）
4. 配付資料
F10Ph2SC37-0 第 36 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案
F10Ph2SC37-1 人事について
F10Ph2SC37-2-1 原子燃料サイクル専門部会決議投票のコメント対応について
F10Ph2SC37-2-2 L2L3 放射能評価標準改定前後比較表
F10Ph2SC37-参考 1 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 委員名簿
F10Ph2SC37-参考 2 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) の基本工程

5. 議事

(1) 出席委員の確認

北島幹事より，開始時点で委員 18 名中 15 名の出席があり（代理出席含む），決議に必要な委員数（12 名以上）を満足している旨報告があった。

(2) 前回議事録案の確認

北島幹事より，前回分科会の議事録案について説明があり，承認された。

(3) 人事について

北島幹事より，岩崎委員，新津委員及び脇委員の退任，田中，井上常時参加者の登録解除の報告があり了承された。また，相澤委員，根本委員及び中瀬委員の選任及び脇，古田常時参加者の登録について承認された。

岩崎委員の退任に伴い，川上主査より高橋委員を副主査に指名する旨の報告があった。

(4) 原子燃料サイクル専門部会決議投票のコメント対応について

本山常時参加者より、原子燃料サイクル専門部会決議投票のコメント対応について説明があり、以下の質疑応答、コメントがあった。

- ・ No. 64 及び 67 の対応案に記載されている「により」を「によって」に修正すること。
⇒拝承。
- ・ No. C41 時間 t の単位を (s) から (h) に修正すること。
⇒拝承。
- ・ No. D18 「規格化データの真値」を「仮想化データの真値」に修正すること。
⇒拝承。
- ・ No. D23 No. C51 と同じ表現（「審査中」を削除）に見直すこと。
⇒拝承。
- ・ No. F36 プラント名を記載できない理由ではなく、レベル区分（～Bq 以上等）を明確化できない理由を説明すること。
⇒例外があることからこのような表現にしたが、表現を検討する。
- ・ No. L32 及び L33 の対応案は適当ではないので、次のとおり L.2.2 b) 及び L.3.1 を修正する案はどうか。

L.2.2 核種の種類に応じた放射能濃度決定方法

b) 放射化核種 放射化核種は、原子炉施設を構成する材料に含まれる元素が中性子の照射で放射化している放射性核種で放射化後も生成場所にとどまるものである。

L.3.1 放射化核種と汚染核種とが混在する場合の放射能濃度の評価方法の基本的な考え方

この附属書は、放射化物の表面に無視できない放射能濃度の汚染が生じている場合の放射能濃度の評価方法の適用例を示したものである。

放射化核種に適用できる放射能濃度の評価方法は、次による。

- － 計算による方法
- － 濃度比と測定とによる方法
- － 測定による方法

また、汚染核種に適用できる放射能濃度の評価方法は、次による。

- － 濃度比と測定とによる方法
- － 測定による方法

⇒拝承。

(5) 標準改定の全体計画

北島幹事より、LLW 放射能評価分科会の基本工程について、説明がなされた。9月4日の原子燃料サイクル専門部会で本コメント対応について報告を行い、9月12日の標準委員会に前回の原子燃料サイクル専門部会で用いた資料を用いて本標準を諮ることとする。その後、標準委員による書面

投票，公衆審査を経て本標準の制定となる。

6. 次回の予定

次回分科会は，2018年11月5日（月）（13:30～，原子力安全推進協会の会議室）とし，正式な案内は，別途，事務局から連絡する。

以 上